

夏季・研修会 ご案内

日 程・7月29日(水)、30日(木)

講 師・佐野 明弘 師

(京都・大谷専修学院学院長)

講 題・本願に帰す

～水俣からの問いかけ～

参加費・3,000円

(1講義=1,000円) 食費込

29日 (水)

17:00 受付
17:30 夕食
18:20 開講式
19:00 問題提起
20:00 講義 1
22:00 就寝

※食事、宿泊が必要な方は、
7月26日(日)までにご
連絡をお願いします。

30日 (木)

6:00 起床
7:00 勤行
8:00 朝食
9:30 講義 2
11:00 座談
12:00 昼食
13:30 講義 3
15:30 質疑応答
16:00 閉講式
16:30 如是我聞の宴



水俣・湯の鶴温泉神社

微妙音

発行所
無量山 真宗寺

☎ 862-0911

熊本市東区健軍4丁目17-45

☎ (096) 368-3759

☎ (096) 368-3780

E-mail:shinshuji@triton.ocn.ne.jp

郵便振替:01960-6-52645

加入者名:真宗寺事務局

日時 2026年7月26日(日)
15:00～17:00
会場 真宗寺本堂
会費 定員 お気持ち
20名



参加申込は真宗寺まで ☎ 096-368-3759

講師 新庄剛士さん
ボイストレーニング講師&アメリカンフットボールコーチ

声は「カラダの響き」です。でも日常の疲れやストレスで肩や背中が凝り固まってしまうと呼吸も浅くなり、「カラダの響き」を感じることが出来なくなってしまう。簡単なマッサージとストレッチで楽に呼吸が出来る状態にカラダを整え、そのカラダを響かせていきます。そしてそのカラダの響きで読経することで発せられる音や波動によって、さらにココロとカラダが調っていきます。

禅ボイス開講のご案内♪

ストレッチ&発声・読経体験

カギ氷、ジュース、焼き鳥、生ビールなど、たくさん用意しております。くじ引き、輪投げもあります。皆様、お気軽にご参加ください。

盆おどり

8月15日(土) 午後7時より

ちょうど去年の今頃、僧侶になる為に在学した専門学校の同窓会が、京都で開かれるという知らせが届いた。最初は行くか迷ったが、この機会を逃すとなかなか同窓生と会う機会もないだろうと思う、5年ぶりに京都に足を運んだ。

同窓会は2日間の日程で行われ、最初に講師の先生の講義を聞いて、座談から懇親会という流れで1日目は進んだ。参加者は決して多くはなかったが、10年ぶりに会った同窓生たちは当時と変わらず、住んでいる場所は違っても、各々置かれた場所で苦労しながら頑張っている様子だった。

私は懇親会には参加せず、在学していた時にお世話になった先生を訪ねて、専門学校寮の寮に向かった。寮の玄関先に着き、チャイムを鳴らすと、間もなく先生が出てきて、寮の座敷に通された。お茶を淹れに行ったら先生を待っている間、私は亡くなった同部屋の友人の事を思い出していた。

この学校は全寮制で、1年間寮で共同生活をするのだが、彼は学校を休んで毎日のように仏教の勉強会に参加したり、法話を聞きに行ったりしていた。入学して初めの頃は学校にも来ていたが、1学期も終わりに近づくと、まるっきり学校

には姿を見せなくなった。彼はいつも寮の門限ギリギリに帰って来ては、風呂から上がって来ると、仏教書を座布団の横に置き、学校に対する愚痴や、大学時代に勉強で挫折した話を毎晩遅くまで、何時間も私ともう1人の同部屋の友人に語っていた。

彼はよくこんな言葉を口にしていて。「ちゃんと念仏しているか」。冗談半分で言っていたと思うのだが、時が経った今になって、ふと思いつく事がある。

彼は博学だが、碎けた話も得意で、よく皆を笑わせていた。何より毎晩のマシンガンの様なトークからは、時折り彼の愚直さと生真面目さが垣間見えて、本を読んだり、勉強するのが嫌いだ。私は、何より彼の会話の中で出会うたくさんの言葉からいろんな事を学んでいた。

同窓会2日目の講義が終わり、最後に集合写真を撮る時、友人が彼の顔写真を拡大して厚紙に貼り付け、彼のプラカードを作ってくれた。そのプラカードを友人はおもむろに私に渡してくれた。シャッターの音が聞こえる寸前、プラカードを掲げた私は、亡くなった彼とまた再会できたような気がした。(古賀彰)

みみょうおん

「ちゃんと念仏しているか」

僧侶の学校で同期だった友人の言葉

いのちの祈り その8

―「群萌の会」講義録―

宗正元師 講述

真理の一言

釈尊の教えというものは、通して仏の道を歩いて行かれた方々が、釈尊が世に出られたのは弥陀の本願をあきらかにするために、そういうことを証明していくわけです。それが釈尊の正意だと。釈尊が世に出られた正意は、弥陀の本願をあきらかにするために、南無阿弥陀仏の道が大事なことであるということをはっきりと明かにして下さった。南無阿弥陀仏を称えるというのは釈尊以前からですからね。

題目を唱えるというのは日蓮上人から始まったんですよ。仏教の歴史の中から生まれて

きたんです。唱題です。南無妙法蓮華經という題目を唱える。南無阿弥陀仏は仏教以前ですよ。人々の中に生まれてきた。

親鸞聖人は真言という言葉で言いあらわされていますが、「撰取不捨の真言」、「真理の一言」とかね。真理とはどんな真理かというと、人間を救う真理です。救うというのは人間を変革する。我々は救うというとか病気が治るとかね、そういうことを救いと思

いますけれども、そうではない。真理というのは人間を救う真理。どういことが人間を救うのかというと、人間を生まれ変わらせる。人間の立つ場所を変革する。私の心に立つのではなくて、どんな人をも生かしていく、そういう本願によって立たせていく。本願を生きる人になるということ、往生とか、そういう言葉を言いあらわされています。立つ場所が変わることです。立脚地です。私の心とか、人間の心というのは理知です。そういう人間の心に立っているものを、仏の心に立たせる。

念仏の道

つまり本願ということは、光明ということで言いあらわされていますけれども、仏の智慧です。仏さまの智慧を光明という。本願は南無阿弥陀仏になつておる仏さまの智慧です。人間の智慧によって立つのではない。仏さまの智慧とはどんな智慧かというと、光明にあう智慧です。闇を破る智慧です。無明の闇を破る。

無明を破る光になる。夜が明ける。目覚める。私共の目を覚まさせてくださる。なかなか目が覚めない私共の目を覚まさせてくれる光明です。そういうお念仏をひたすら勧めて下さる。そういう方々を、諸仏という。そういう方々が私共に「念仏の道を歩め、念仏を頂け」と勧めて下さるんです。発遣して下さるんですよ。

その発遣の内容を具体的に言いあらわしてあるのが三遣という言葉です。三遣というのは一つはですね。「仏の捨て遣めたまうをばすなわち捨て遣め」です。捨て遣めるという字には「遣」という字を使っています。仏が何を捨てさせてくださるのか。諸善を頼む心です。諸善を頼む心を捨てさせる。これが発遣です。私共の日頃の心はみんな諸善ですよ。諸善という善の中に幸せとか、そういうものも全

正行に帰する

部包まれているんじゃないでしょうか。幸せを求める。諸善を求める。幸せの道を開いていくのを善というような言葉でも言いあらわされますから。大変な教えですよ。

そして、その二番目に「仏の行ぜ遣めたまうをばすなわち行ぜ遣め」とある。「仏さまが行ぜ遣める」といって、やっぱり「遣」の文字が使われている。今度は捨てるんじゃない。捨てて行じる。これが念仏の道です。称名念仏の道。称名念仏の道を行ぜ遣める。諸善を頼む心を捨てさせて、称名念仏の道一つを行ずるように勧める。

称名念仏の道一つを行じていくのをですね、五正行という言葉で善導大師が明かにして下さっている。「読誦、観察、礼拝、称名、讃嘆供養」です。「雑行を捨てて正行に帰する。」と法然上人が特に勧めて下さっておるように。

こういうことを『選択集』で勧めて下さっているから、『選択集』は焼き捨てられるんですよ。当時、法然上人の教えが専修念仏ということでした。念仏が救うんだと。念仏こそが仏法だということを表に出していかけた。それが『選択集』です。

それで、『選択集』は焼き捨てられ、法然上人は流罪です。もちろん法然上人と共に生きていかれた親鸞聖人も流罪。世間的には弾圧されたんですよ。念仏一つで救われる、そんな馬鹿なことがあるかと。まるで仏教界を軽んずるような、そういうようなものの考

え方があるかと言って。当時の仏教界が、そういうものは停止させよと言って朝廷に申し出た。興福寺奏状というものが出された。

それに応えて、親鸞聖人はその出来事について、「主上臣下、法に背き義に違す」と、『教行信証』の最後に取り上げられてますけどね。天皇も臣下も全体が法に背いて義に違っていると。そういう大きな出来事だと。それが大事な転機として取り上げてあるのが『教行信証』です。ただ世の中を嘆いておられたわけではない。

とにかく、五正行の「読誦」っていうのは、暗唱することです。浄土往生の道を説いてある、そういうお言葉。お経になったり、善導大師の言葉であったり、色々な言葉になっている。それを暗唱することが「読誦」です。覚えることです。そしてその言葉を通して、自分自身を考える。どう生きていくのが、自分の生きていく道なのか。

聞思の生活

暗唱するということは、聞くということになるんですよ。暗唱しないと聞けないでしょ。聞法と言っても暗唱している言葉がなければ聞けませんもん。その法をあらわしている言葉、本願念仏のはたらきを、それをあらわしているお言葉、それが日常生活の中で思い起こされる。その言葉が呼び掛けてくる。その呼び掛けを聞くんです。そして自分がどういう生き方をしていくのか聞くことを通して考える。だから「観察」は「聞思」です。つまり「聞思」の世界。

金子大栄という先生の家を訪ねますと、玄関を開けると聞思室と書いてある。何回も先生のお宅に訪ねて行きましたけれども。上賀茂の方に住んでおられた。二階建ての小さな家でしたけれども。訪ねて行くと、待ってたと言わんばかりに、「君、これはこういうことが問題じゃないか」と先生の方から聞き始める。私が先生に講義のお願いをしに行ったのに。

そういうことを非常に嫌われたのは、安田理深先生でした。「訪ねてくるのはいいけど、ふらつと遊びに来いよ。用事をもって訪ねて来るなよ」なんてことを言われましたけど。なかなか安田先生のところには遊びに行けないですよ。用事がある時だけ、困った時だけ。金子先生は訪ねて行ったら、向こうから話が始まってなかなか自分の用事は話すことが出来なかったですけれどもね。もじもじして座っていたことが今でも思い出されます。その先生の家に聞思室と書いてあった。だから亡くなられた後つけられた先生の院号は聞思院です。

我々と共に聞思して下さる。それが金子大栄先生の一生。消えて無くなったわけではない。もちろん肉体はもうこの世にはないけれども、その聞思の生活だけはずっと私自身を導いて下さる。導かれたじゃない。思い起こして絶えず導かれていますよ。それが聞思の生活。どんな生活を自分にしておるかということ、いろいろな生活の中で絶えず考えなおさせられる。そういう意味で忘れられない言葉が聞思です。

(次号に続く)

行事予定

- | | | |
|---------------|---------------|----------|
| 7月 1日 (水) | 『歎異抄聴記』輪読会 | |
| 8日 (水) | 脳トレ健康体操 | |
| 22日 (水) | 脳トレ健康体操 | |
| 28日 (火) | 定例法座 『正信偈』に聞く | |
| 29日 (水) | 夏季研修会 | |
| 30日 (木) | 講師：佐野 明弘 師 | |
| 8月 1日 (土) | 『歎異抄聴記』輪読会 | |
| 12日 (水) | 脳トレ健康体操 | |
| 15日 (土) | 盆踊り | 午後7時 |
| 26日 (水) | 脳トレ健康体操 | |
| 28日 (金) | 定例法座 『正信偈』に聞く | |
| 9月 1日 (火) | 『歎異抄聴記』輪読会 | |
| 9日 (水) | 脳トレ健康体操 | |
| 22日 (火) | 秋・彼岸会法要 | |
| 24日 (木) | 講師：譽田 和人 師 | |
| 28日 (月) | 定例法座 『正信偈』に聞く | |
| ■定例法座『正信偈』に聞く | | ⇒午後1時30分 |
| ■『歎異抄聴記』輪読会 | | ⇒午後2時00分 |
| ■脳トレ健康体操 | | ⇒午後2時00分 |

※各学習会、行事については日程を変更する場合もありますので事前にお問い合わせください。

☎096-368-3759 ✉shinshuji@triton.ocn.ne.jp

真宗寺 ホームページ

URL <https://www.shinshuji-kumamoto.com>